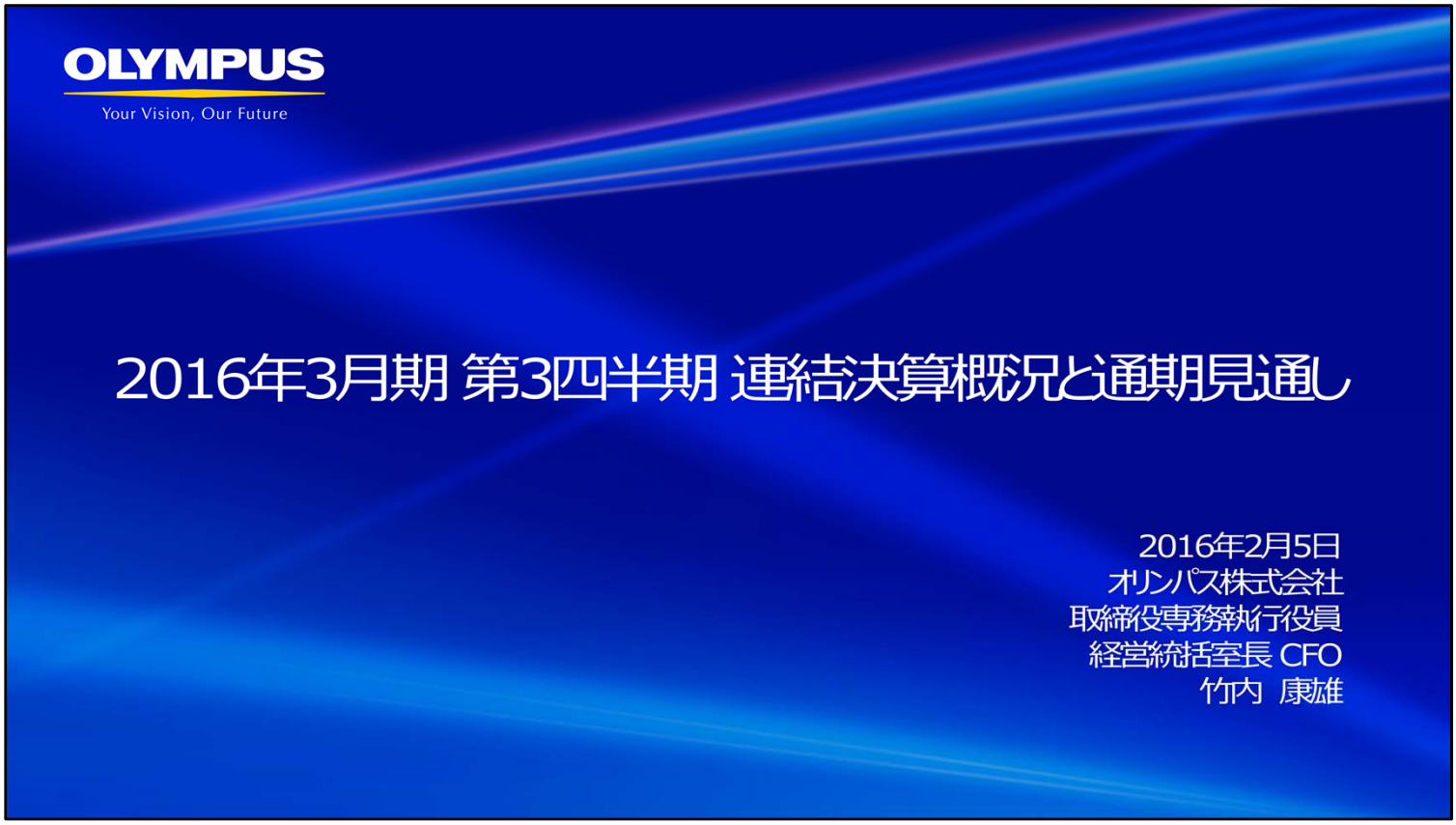


（スライド１）

オリンパスの竹内です。

ご多忙の中、オリンパス株式会社「2016年3月期第3四半期決算（発表）説明会」にお集まりいただき誠に有難うございます。

それでは早速、決算概況についてご説明申し上げます。

ハイライト

第3四半期実績

- 連結：リーマンショック以降、過去最高の営業利益を計上
- 医療：3期連続で過去最高を更新

通期業績見通し

- 米国司法省との協議進捗による損失引当金の追加計上、中国経済の先行き不透明感の高まりはあるものの、従来の年間見通しを達成できる見込み

2016/2/5 No data copy / No data transfer permitted

（スライド２）
スライドの２ページをご覧下さい。

今第3四半期決算における主なポイントはこちらの2点です。

まず、1点目ですが、連結営業利益がリーマンショック以降の過去最高となりました。特に、主力の医療事業が好調に推移し全社業績を牽引、医療事業は3期連続で過去最高実績となりました。

2点目は通期業績見通しです。米国司法省との協議進捗を受け、第3四半期に損失引当金を追加計上しました。また、中国市場の景気減速などマクロ経済に不透明な要素もございますが、これらを吸収し、従来の年間見通しを引き続き達成できると見込んでいる点です。

2016年3月期 第3四半期
連結業績および事業概況

 No data copy / No data transfer permitted

（スライド３）

それでは、第3四半期の決算概況について、詳しくご説明申し上げます。

2016年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

収益性の向上
- ❶ 第3四半期累計として過去最高の営業利益率
- ❷ 医療事業の比率の高まりにより、売上総利益率が改善（+2.8pt）
- ❸ 米国司法省との協議進捗による損失引当金156億円を追加計上したものの増益を確保

（単位：億円）	3Q累計（4-12月） 2015年3月期	2016年3月期	増減額	前年同期比	3Q実績（10-12月） 2015年3月期	2016年3月期	前年同期比
売上高	5,500	5,925	+425	+8%	1,950	1,968	+1%
売上総利益（売上総利益率）	3,504 (63.7%)	3,938 (66.5%)	+434 (+2.8pt)	+12%	1,250 (64.1%)	1,310 (66.6%)	+5%
販管費（販管費率）	2,884 (52.4%)	3,201 (54.1%)	+318 (+1.7pt)	+11%	1,014 (52.0%)	1,074 (54.6%)	+6%
営業利益（営業利益率）	621 (11.3%)	737 (12.4%)	+116 (+1.1pt)	+19%	236 (12.1%)	236 (12.0%)	△0%
経常利益（経常利益率）	482 (8.8%)	647 (10.9%)	+165 (+2.1pt)	+34%	185 (9.5%)	212 (10.8%)	+14%
当期純利益(※)（当期純利益率）	319 (5.8%)	429 (7.2%)	+109 (+1.4%)	+34%	96 (4.9%)	70 (3.6%)	△27%
円／USドル	107円	122円	15円（円安）				
円／Euro	140円	134円	▲6円（円高）				
影響額：売上高	-	+260億円					
影響額：営業利益	-	+125億円					

2016/2/5 No data copy / No data transfer permitted

（※）親会社株主に帰属する当期純利益

（スライド4）

スライドの4ページをご覧下さい。

こちらは連結の業績概況です。

売上高は前年同期比8%増の5,925億円、営業利益は19%増の737億円となりました。また、営業利益率は12.4%と前年同期比で約1ポイント改善し、収益性も向上しています。これは、利益率の高い医療事業の比率が高まったことで、合わせて円安の効果も含め、売上総利益率が改善したことが大きく寄与しています。

経常利益についても、好調な医療事業による増益に加えて、営業外収支の改善などにより、前年同期比34%増の647億円となりました。

当期純利益は先ほど申し上げた米国司法省との協議の進捗により、156億円の引当金を追加で計上しましたが、繰延税金資産の加算など税引当ての減少効果もあり、前年同期比34%増の429億円となりました。

2016年3月期 第3四半期実績 ②セグメント別概況

❶ 医療事業：第3四半期として過去最高の実績
❷ 映像事業：販管費改善等により黒字を確保し、順調な進捗

(単位：億円)		3Q累計（4-12月） 2015/3	2016/3	増減額	前年同期比	3Q実績（10-12月） 2015/3	2016/3	増減額	前年同期比
医療	売上高	3,981	❶ 4,452	+471	+12%	1,413	❶ 1,473	+60	+4%
	営業利益	840	986	+146	+17%	294	308	+13	+5%
科学	売上高	728	735	+7	+1%	261	251	△10	△4%
	営業利益	36	56	+20	+56%	23	22	△1	△3%
映像(※)	売上高	606	620	+14	+2%	229	205	△24	△11%
	営業利益	△49	❷ 1	+50	-	△12	❷ 1	+12	-
その他(※)	売上高	185	118	△67	△36%	46	39	△7	△16%
	営業利益	△4	△48	△44	-	△3	△16	△13	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△202	△258	△56	-	△66	△79	△13	-
連結合計	売上高	5,500	5,925	+425	+8%	1,950	1,968	+18	+1%
	営業利益	621	737	+116	+19%	236	236	△0	△0%

2016/2/5 No data copy / No data transfer permitted

（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

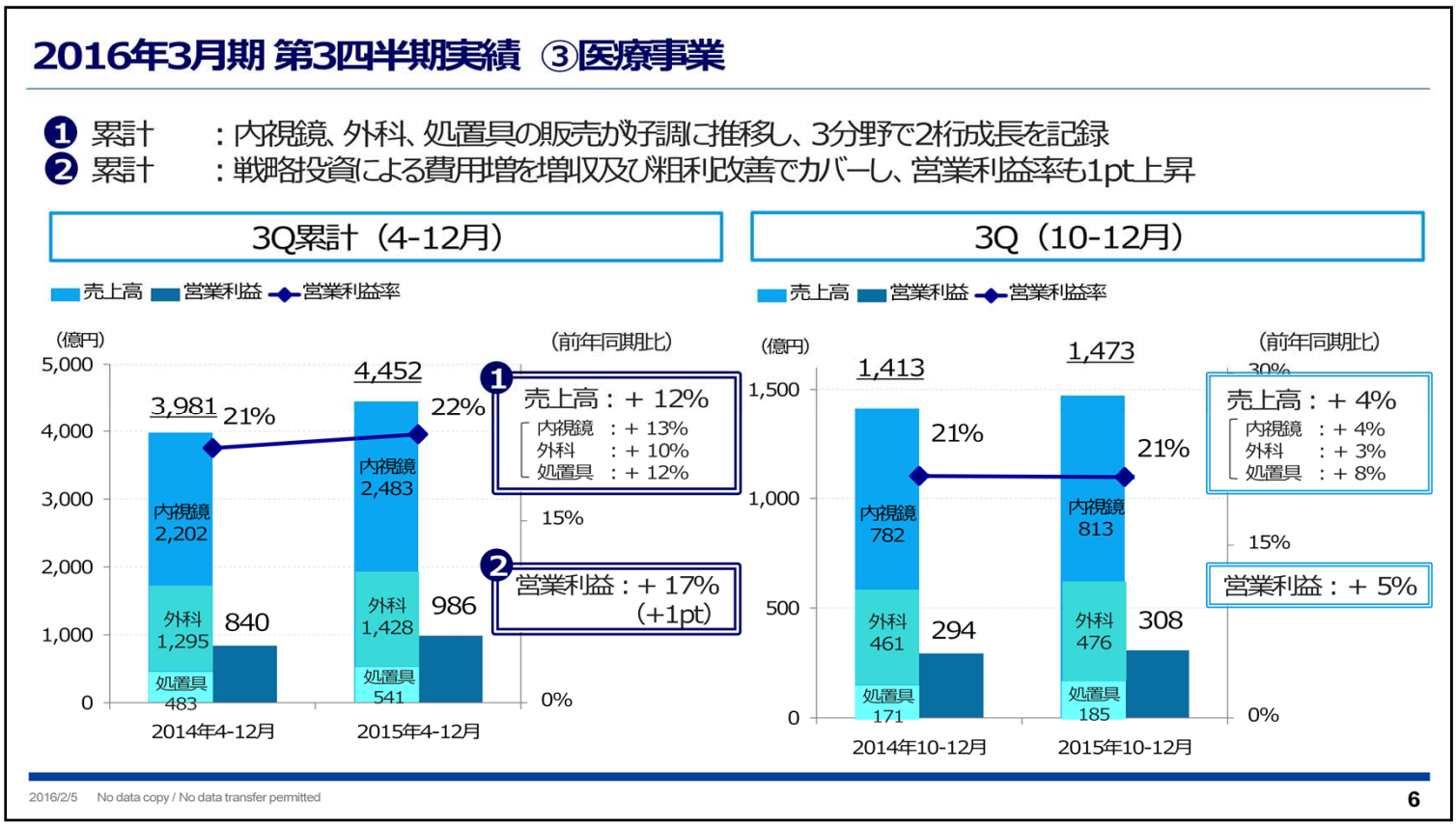
（スライド5）

スライドの5ページをご覧下さい。

続きまして、セグメント別の状況についてご説明申し上げます。

医療事業は、第3四半期として過去最高の売上高、営業利益を計上し、引き続き全社業績を牽引しています。

映像事業は、継続的な販管費の削減などにより、前年同期の営業赤字から大きく改善し、上期に引き続き、黒字を確保することができました。



（スライド6）

スライドの6ページをご覧下さい。

続きまして事業別の決算状況になりますが、こちらは、医療事業です。

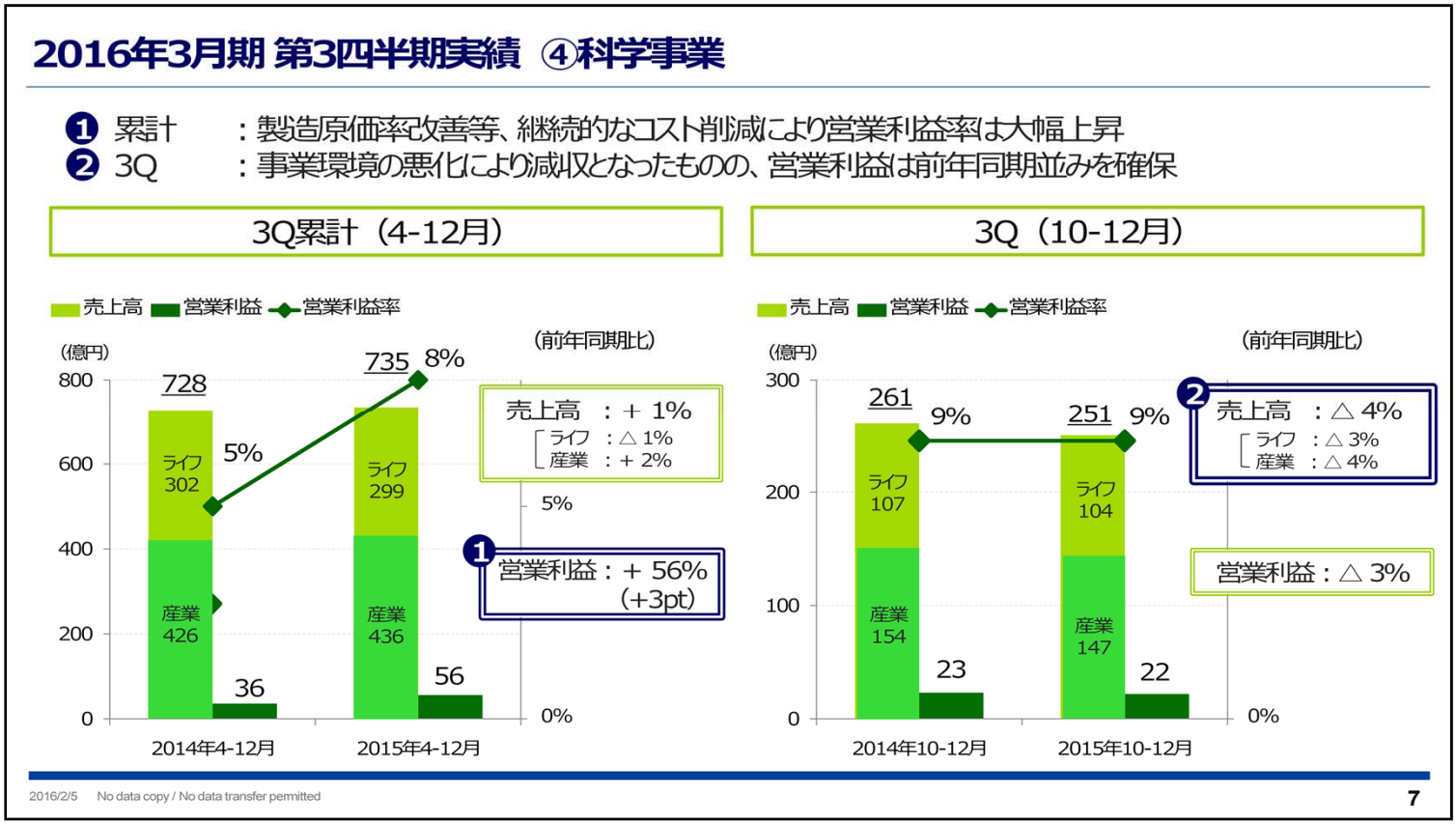
内視鏡、外科、処置具の全分野で2桁成長を達成し、第3四半期累計の売上高は、前年同期比12%増の4,452億円、営業利益は17%増の986億円となりました。

主力の内視鏡ですが、全地域で増収となり、全体でプラス13%の成長となりました。特に国内マーケットは、この10-12月期において国立病院等の一部で予算執行の回復が見られ、成長を牽引しました。

一方、外科分野は、海外が好調に推移し、全体で10%の増収となりました。特に、欧米マーケットにおいて、エネルギー分野のサンダービートが大きく増収に貢献しています。

処置具分野は、北米で引き続き販売体制強化の成果が出ているほか、新製品効果などもあり12%の増収となりました。

また、営業利益率は戦略投資による費用増を、増収および粗利改善でカバーし、1ポイント上昇し、約22パーセントとなりました。



（スライド7）

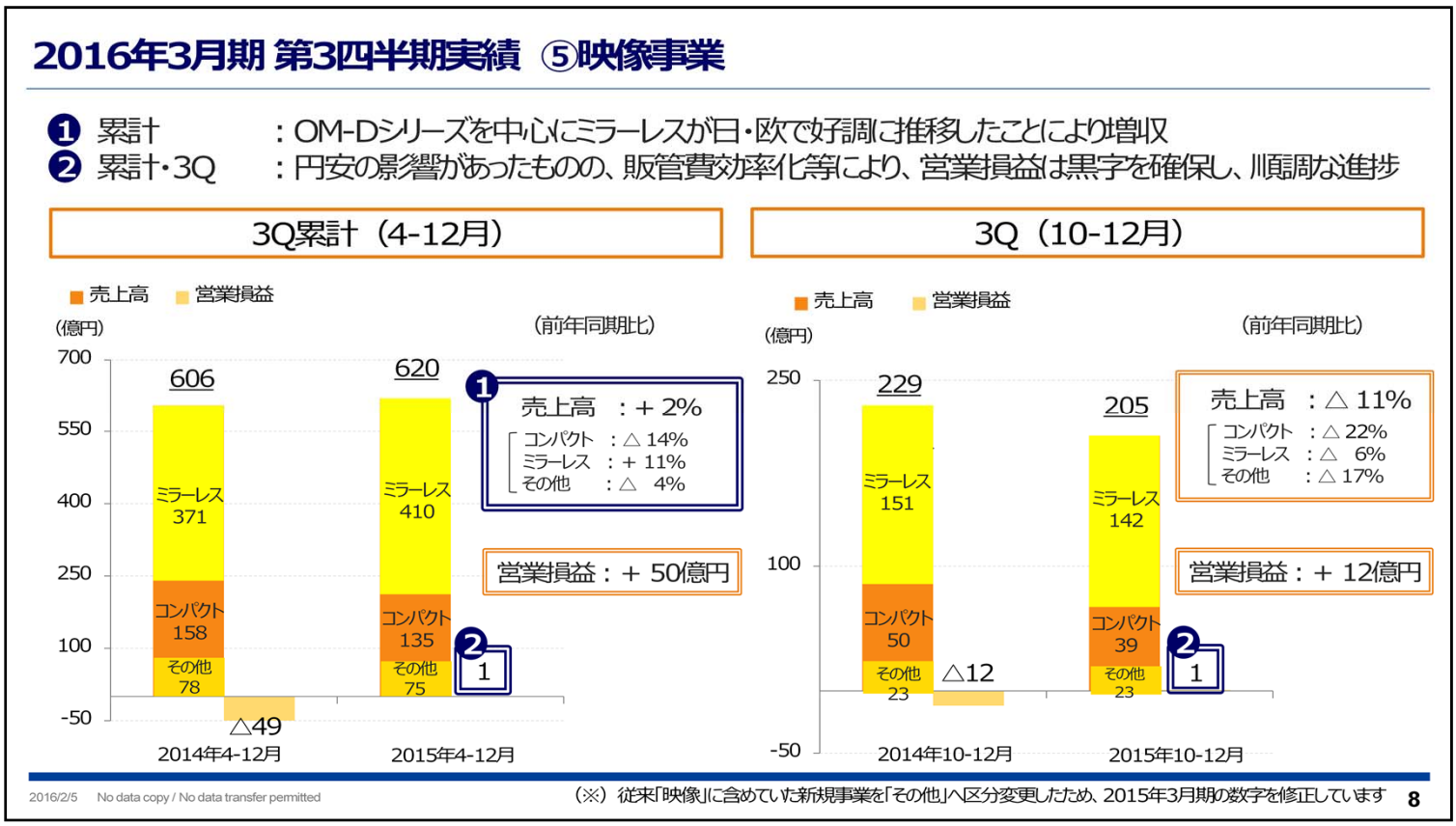
スライドの7ページをご覧下さい。

科学事業の決算概況です。

第3四半期累計の売上高は、前年同期比1%増の735億円、営業利益は前年同期比56%増の56億円となりました。

営業利益は、円安の効果や、収益性の高い産業分野の比率が高まったことに加え、 生産販売計画の適正化による原価改善等により、大幅な増益となりました。その結果、営業利益率は前年同期比で3ポイント改善し、収益性が大きく向上しています。

尚、10-12月期の第３四半期だけでは、研究施設の予算執行が抑制されたことや、企業の設備投資意欲が鈍化傾向にあることから、減収となりましたが、収益性の改善により、前年同期並みの営業利益を確保することができました。



（スライド8）

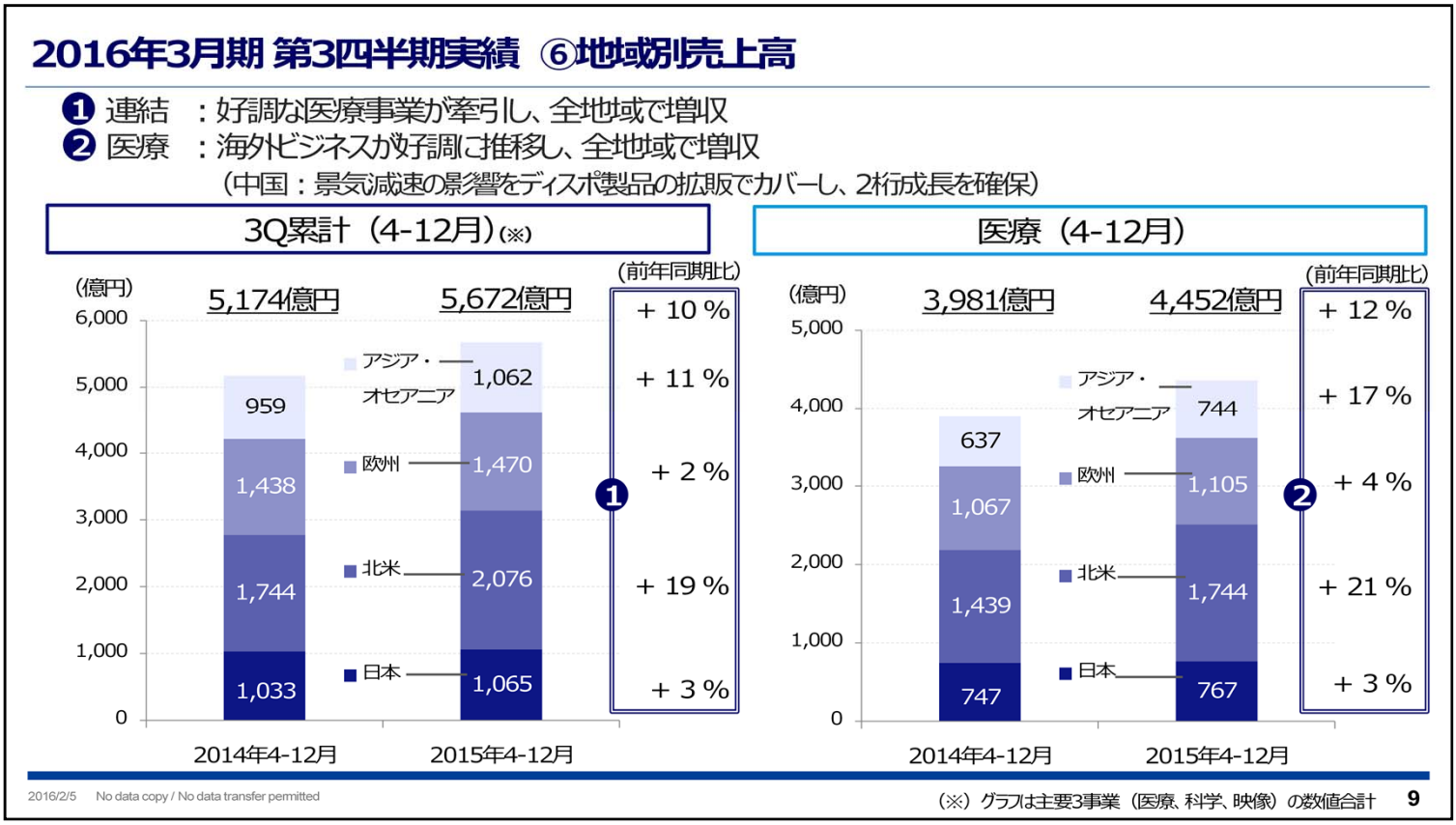
スライドの8ページをご覧下さい。

映像事業です。

第3四半期累計の売上高は、前年同期比2%増の620億円。営業利益も上期に続き、黒字を確保することができました。

主力のミラーレスカメラは、国内と欧州でOM-Dシリーズを中心に販売が好調に推移し、売上高は11%増の410億円、販売台数も12%増の43万台となりました。

営業損益は、円安の悪影響があったものの、ミラーレスの増収効果や、広告宣伝費、販売促進費、研究開発費等の販管費削減を進めたことで黒字を確保し、順調に推移しています。



（スライド9）

スライドの9ページをご覧下さい。

地域別の販売状況です。

連結ベースでは、医療事業が牽引し、全地域で増収となっています。

右側のグラフは医療事業だけを抜き出したものですが、こちらも全地域で増収です。

特に、北米マーケットは、主力の消化器内視鏡および外科内視鏡が堅調に推移したほか、戦略製品のサンダービートが好調に推移したことなどにより、前年同期比21%増の大幅増収となりました。

尚、減速懸念のある中国市場については、病院の予算執行鈍化の影響を処置具やエネルギーデバイスなど、ディスポーザブル製品の拡販でカバーし、2桁成長を確保しています。

連結貸借対照表（2015年12月末）

❶ デジカメ在庫の削減は予定通りに進捗し、80億円減の157億円
❷ 医療事業の主力製造拠点への設備投資等により有形固定資産が175億円増加
❸ 有利子負債は約400億円圧縮、自己資本比率は36.7%

（単位：億円）	2015年3月末	2015年12月末	増減額
流動資産（デジカメ在庫）	5,775（237）	❶ **5,669（157）**	△106（△80）
有形固定資産	1,501	❷ **1,677**	+175
無形固定資産	1,806	**1,661**	△146
投資その他資産	1,732	**1,822**	+90
資産合計	10,816	**10,829**	+13

	2015年3月末	2015年12月末	増減額
流動負債	3,748	**3,637**	△111
固定負債（内：社債・長期借入金）	3,495（2,533）	**3,198（2,236）**	△297（△297）
純資産	3,573	**3,994**	+421
（自己資本比率）	（32.9%）	❸ **（36.7%）**	（+3.8pt）
負債 純資産 合計	10,816	**10,829**	+13

❸ 有利子負債： 3,142億円（2015年3月末比 △402億円）
純有利子負債： 1,054億円（2015年3月末比 △391億円）

2016/2/5 No data copy / No data transfer permitted

（スライド10）
スライドの10ページをご覧下さい。

バランスシートの状況です。

まず、デジタルカメラの在庫ですが、生産面のコントロールを確実に実行し、ミラーレスカメラの販売が好調に推移したこと等から、2015年3月末から80億円減少の157億円、回転月数では、適正レベルと考えております、2.6ヶ月となりました。

有形固定資産は2015年3月末比で175億円増加しました。これは主に、医療事業の主力製造拠点である東北地方の3つの工場の生産能力増強に伴った設備投資によるものです。

有利子負債は期日弁済などにより、2015年3月末比で約400億円減の3,142億円となりました。また、順調な当期純利益を受けて、自己資本比率は2015年3月末比で約4ポイント改善し、36.7%となりました。

連結キャッシュフロー計算書（2015年4月～2015年12月）

❶ FCF：好調な事業利益を主要因として、前年同期比約3倍となる456億円を確保

（単位：億円）	2015年3月期3Q	2016年3月期3Q	増減
売上高	5,500	5,925	+425
営業利益	621	737	+116
（営業利益率）	11.3%	12.4%	+1.1pt
営業CF	358	849	+491
投資CF	△215	△393	△178
財務CF	△577	△460	+117
キャッシュフロー	△434	△4	+430
フリーキャッシュフロー	142	❶ 456	+314
現金及び現金同等物期末残高	2,164	2,088	△76
減価償却費	299	292	△7
のれん償却額	69	75	+6
設備投資額	278	485	+208

（スライド11）

スライドの11ページをご覧下さい。

キャッシュフローの状況です。

営業キャッシュフローは、好調な医療事業を中心とした事業から創出するキャッシュに加え、売上債権の減少などにより、849億円のプラスとなりました。

投資キャッシュフローは、 393億円のマイナスとなりました。これは先ほどご説明した、医療事業の主力製造拠点への設備投資など、有形固定資産取得に関する費用が増加したものです。

以上により、フリーキャッシュフローは、前年同期比で約3倍の456億円となりました。

なお、財務キャッシュフローですが、有利子負債を返済したことにより、460億円のマイナスとなりました。

2016年３月期 通期業績見通し

 No data copy / No data transfer permitted

（スライド12）
次に、2016年3月期の業績見通しについてご説明いたします。

2016年3月期 通期業績見通し

■ 米国司法省との協議進捗による損失引当金156億円の追加計上、中国経済の先行き不透明感の高まりはあるものの、従来の年間見通しを達成できる見込み

（単位：億円）	2015年3月期（実績）	**2016年3月期（最新見通し）**	前期比増減額	前期比（%）
売上高	7,647	**8,160**	+513	+7%
営業利益 （営業利益率）	910 (11.9%)	**1,000** **(12.3%)**	+90 (+0.4pt)	+10%
営業外収支	△182	**△140**	+42	－
経常利益 （経常利益率）	728 (9.5%)	**860** **(10.5%)**	+132 (+1.0pt)	+18%
当期純利益（※） （当期純利益率）	△87 (－)	**560** **(6.9%)**	+647 (－)	－
円／USドル	110円	**120円**	10円（円安）	
円／Euro	139円	**133円**	6円（円高）	
影響額：売上高	-	**+221億円**		
影響額：営業利益	-	**+119億円**		

2016/2/5 No data copy / No data transfer permitted

（※）親会社株主に帰属する当期純利益 13

（スライド13）

スライドの13ページをご覧下さい。

冒頭申し上げました通り、追加の損失引当金計上や、マクロ環境悪化の影響等がございますが、医療事業を中心に事業が堅調に推移していることに加え、法人税等の減少もあり、従来の業績見通しを引き続き達成できる見込みです。

売上高は前年同期比７％増の8,160億円、営業利益は10%増の1,000億円、経常利益は18%増の860億円、当期純利益は前年の純損失から改善し、 560億円となる見通しです。

2016年3月期 セグメント別業績見通し

❶ 医療事業が全社業績を牽引
❷ 売上高　　：科学事業は事業環境の悪化により下方修正。映像事業はこれまでの売上増を反映し上方修正
営業利益　　：科学事業、映像事業ともに据え置き

	（単位：億円）	2015/3（実績）	2016/3（最新見通し）	前期比増減額	前期比（%）	2016年3月期（2Q時見通し）
医療	売上高	5,583	❶ 6,150	+567	+10%	6,150
	営業利益	1,249	1,370	+121	+10%	1,370
科学	売上高	1,039	❷ 1,060	+21	+2%	1,100
	営業利益	68	80	+12	+17%	80
映像（※）	売上高	794	800	+6	+1%	760
	営業利益	△ 117	0	+117	−%	0
その他（※）（新事業）	売上高	230	150	△ 80	△ 35%	150
	営業利益	△ 10	△ 120	△ 110	−%	△ 120
全社・消去	売上高	−	−	−	−%	−
	営業利益	△ 281	△ 330	△ 49	−%	△ 330
合計	売上高	7,647	8,160	+513	+7%	8,160
	営業利益	910	1,000	+90	+10%	1,000

2016/2/5 No data copy / No data transfer permitted
（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

（スライド14）

スライドの14ページをご覧下さい。

セグメント別の見通しです。

医療事業は、売上高、営業利益ともに大きく成長し、過去最高業績を更新、全社業績を牽引する見通しです。

科学事業は、事業環境の悪化により、従来の売上高見通しを一部下方修正しました。

一方、映像事業で第3四半期までの売上高が、計画を上回って進捗したことにより、売上見通しを上方修正していますが、科学・映像事業共に営業利益については従来見通しを据え置いています。

OLYMPUS

最後になりました。

この第3四半期以降、世界経済に不透明感が高まるなど、事業環境の変化もございましたが、当社は全体として、ほぼ計画にそった事業運営、業績確保となりました。

残り3ヶ月、今期の取り組みを確実に実行することで、通期の業績見通しを達成し、次年度よりスタートする新中期経営計画に繋げてまいりたいと思います。

私からは以上です。
ご清聴有難うございました。

参考資料

No data copy / No data transfer permitted

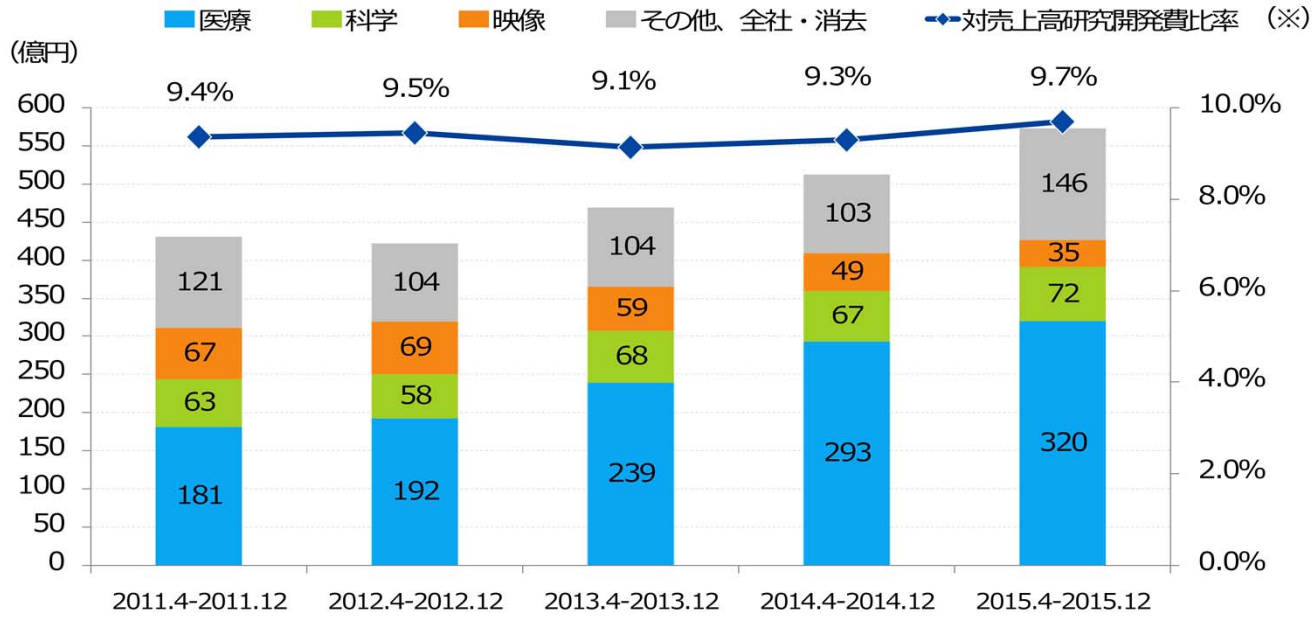
【参考資料】映像事業 3Q（10-12月）前年同期比･差異 詳細

（億円）	2015年3月期 3Q（10-12月）	2016年3月期 3Q（10-12月）	増減
売上高	229	205	△24
ミラーレス一眼	151	142	△8
コンパクトカメラ	50	39	△11
その他 （※）	28	23	△5
売上総利益	97	88	△9
販管費	109	87	△21
営業損益	△12	1	+13

No data copy / No data transfer permitted

（※）従来「映像事業」の「その他」に含めていた新規事業を「その他事業」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

【参考資料】研究開発費

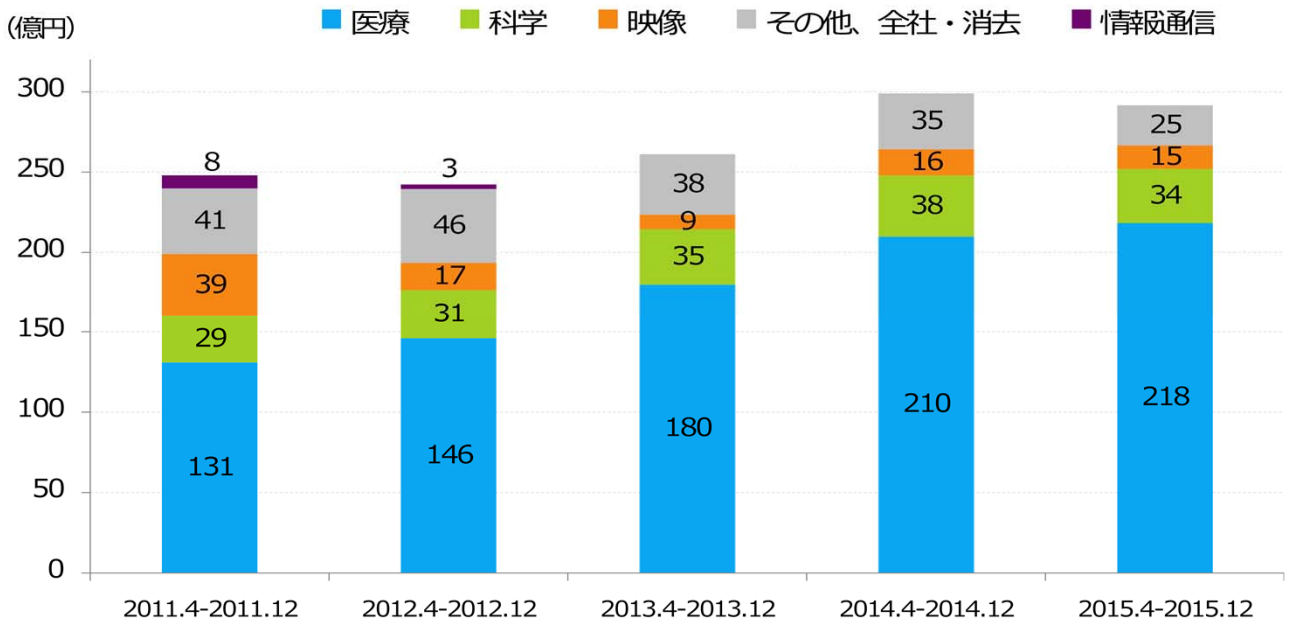


431億円　423億円　469億円　513億円　573億円

No data copy / No data transfer permitted

（※）情報通信事業の売上高を除いた数値

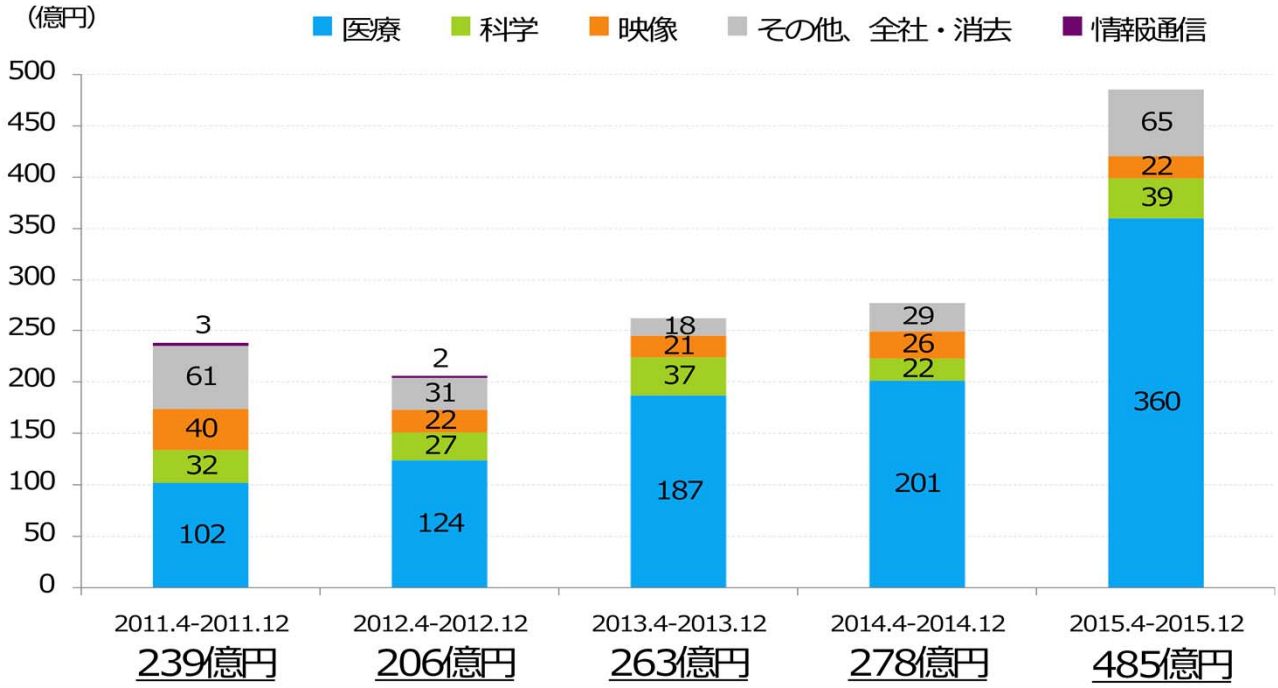
【参考資料】減価償却費



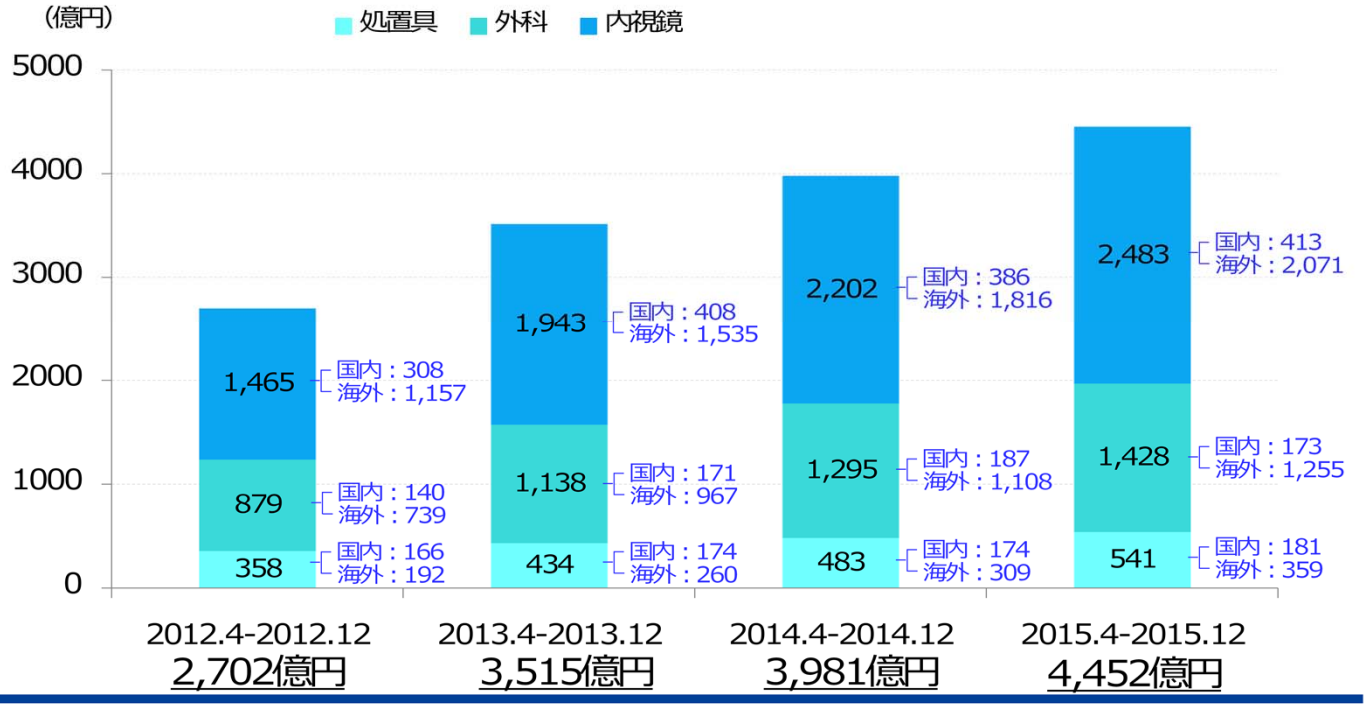
248億円　243億円　261億円　299億円　292億円

No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】設備投資

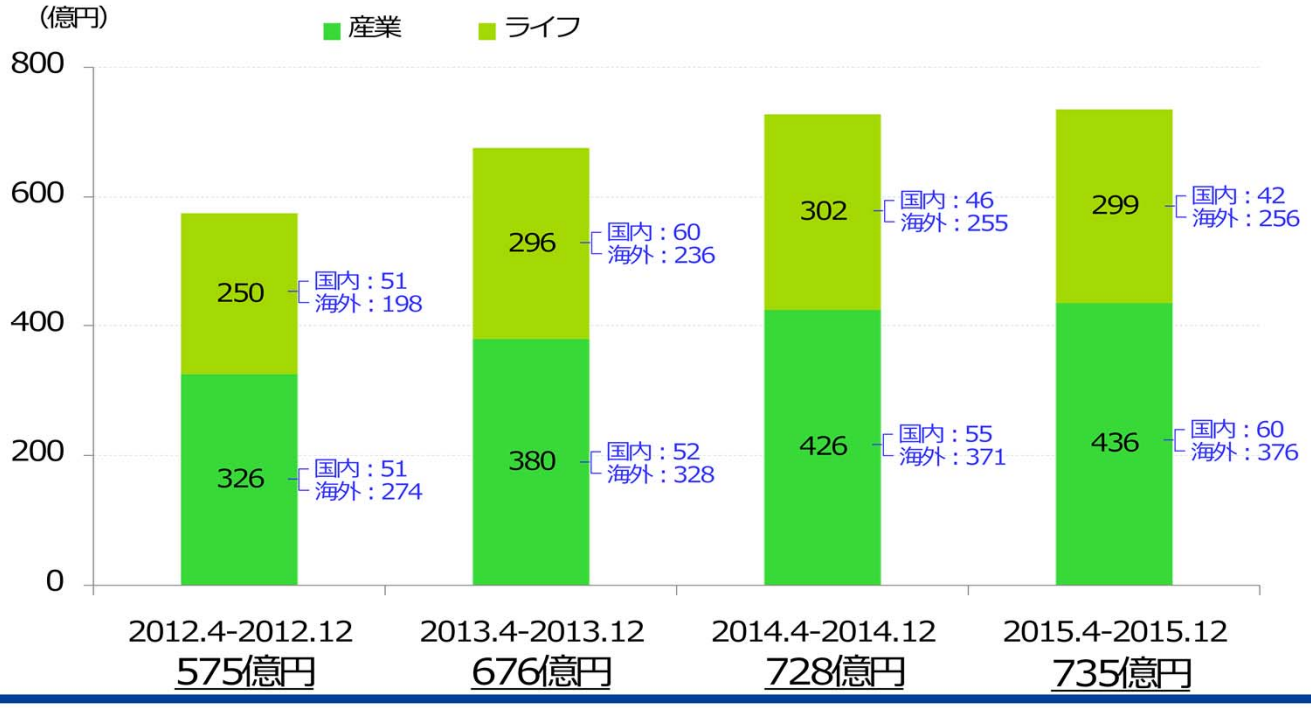

(億円)
医療
科学
映像
その他、全社・消去
情報通信
500
450
400
350
300
250
200
150
100
50
0
3
61
40
32
102
2
31
22
27
124
18
21
37
187
29
26
22
201
65
22
39
360
2011.4-2011.12
2012.4-2012.12
2013.4-2013.12
2014.4-2014.12
2015.4-2015.12
239億円
206億円
263億円
278億円
485億円

【参考資料】分野別売上高　（医療）



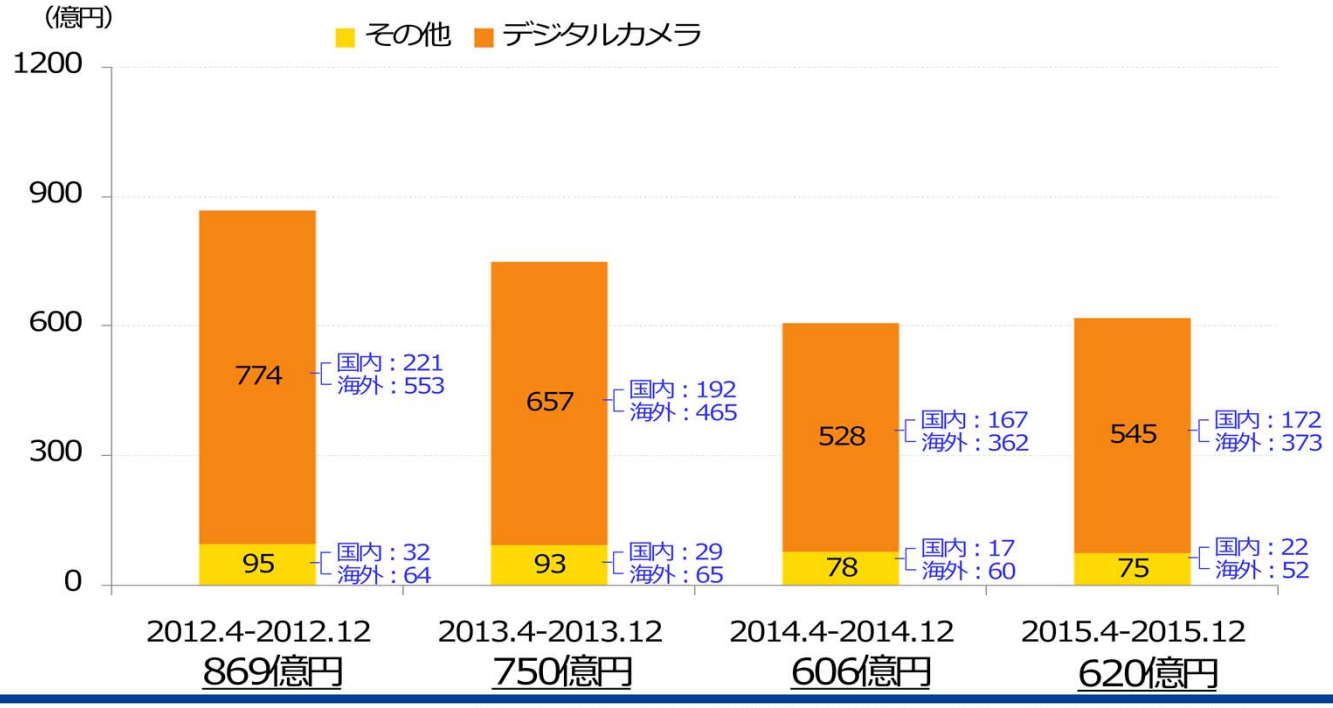
No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】分野別売上高　（科学）



No data copy / No data transfer permitted

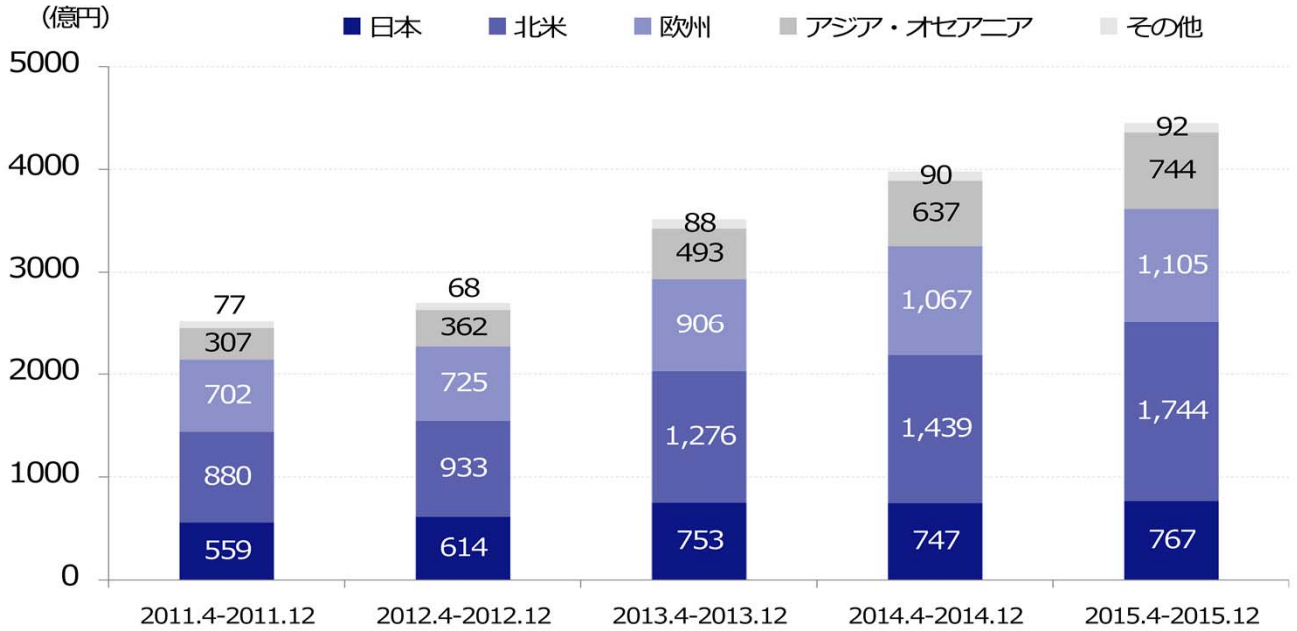
【参考資料】分野別売上高　（映像）



 No data copy / No data transfer permitted

（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

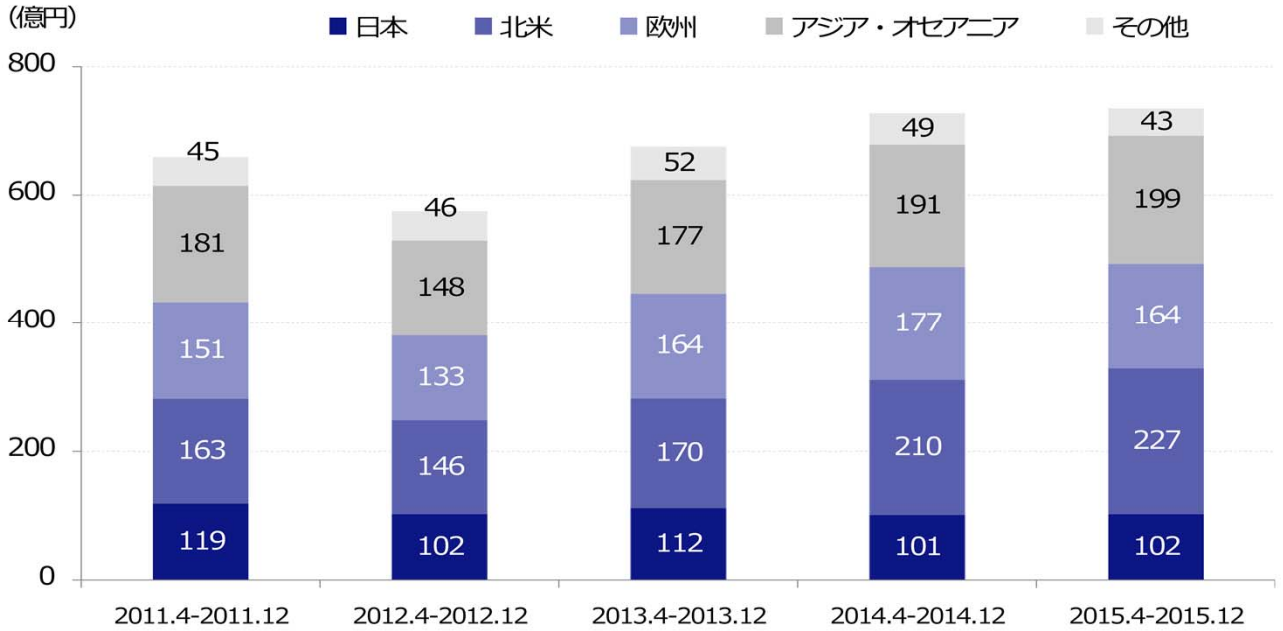
【参考資料】地域別売上高　（医療）



2,525億円　2,702億円　3,515億円　3,981億円　4,452億円

No data copy / No data transfer permitted

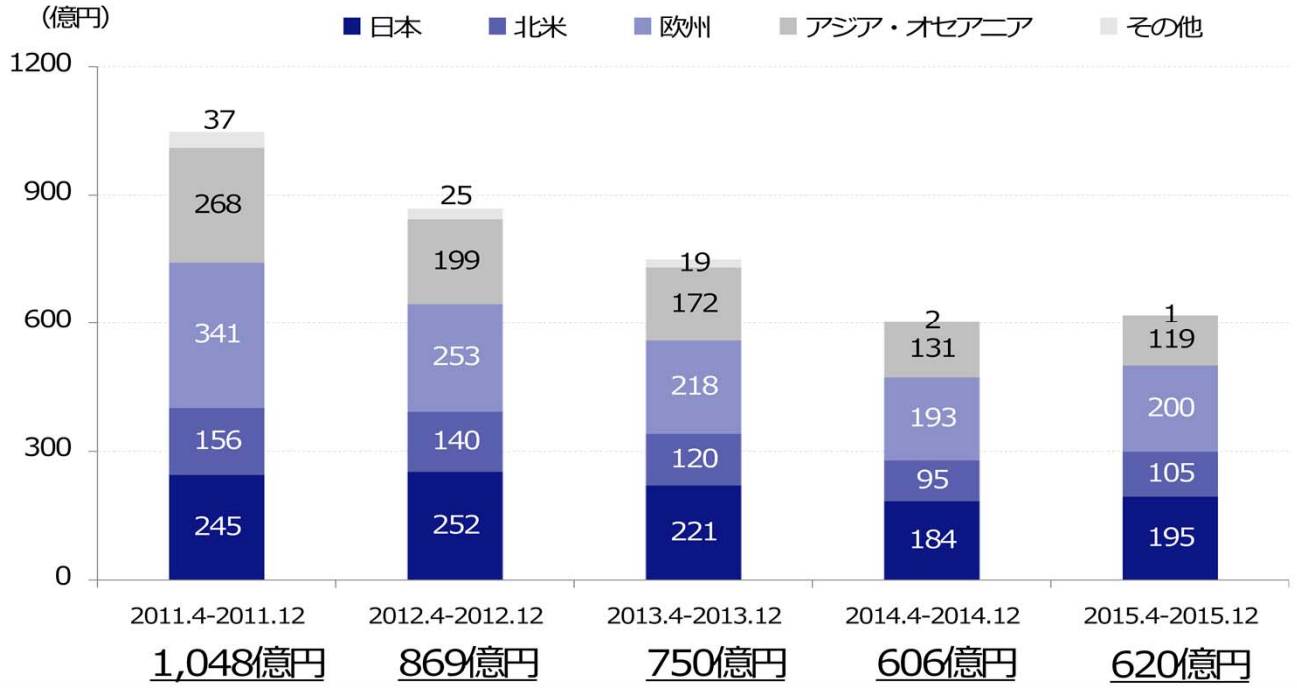
【参考資料】地域別売上高　（科学）



659億円　575億円　676億円　728億円　735億円

No data copy / No data transfer permitted

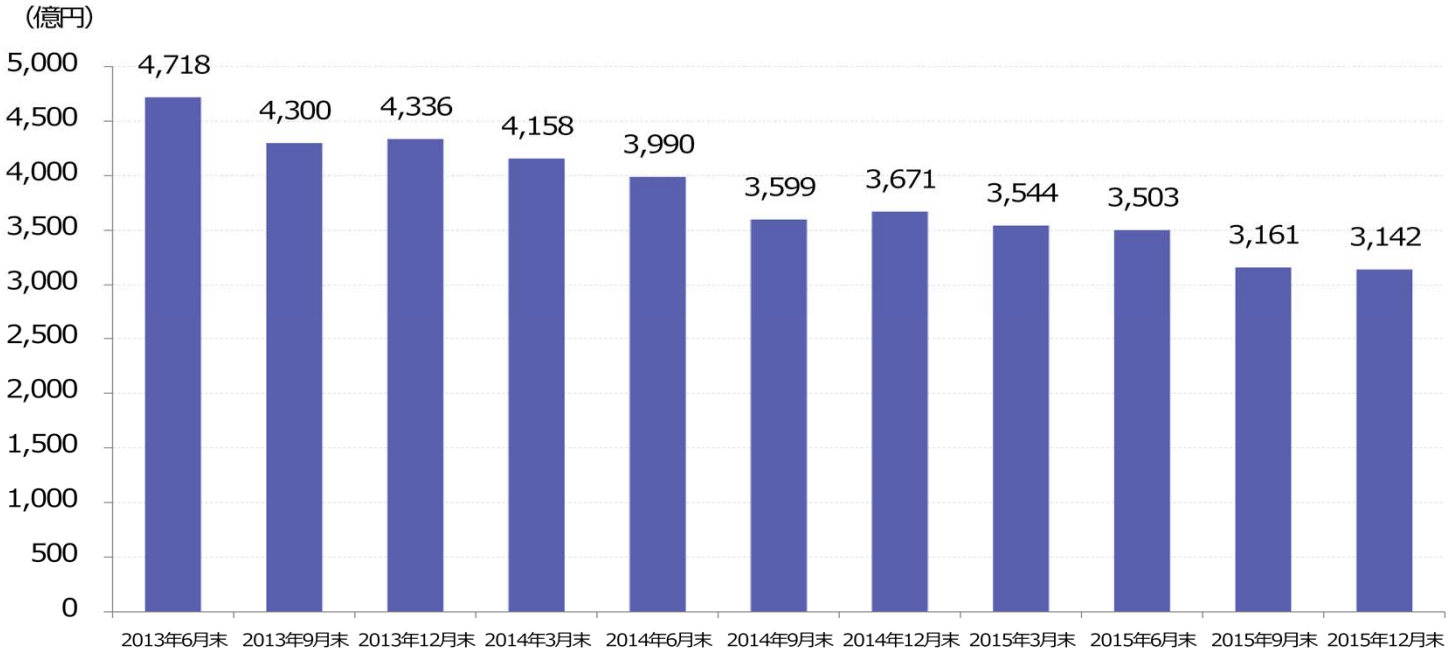
【参考資料】地域別売上高　（映像）



 No data copy / No data transfer permitted

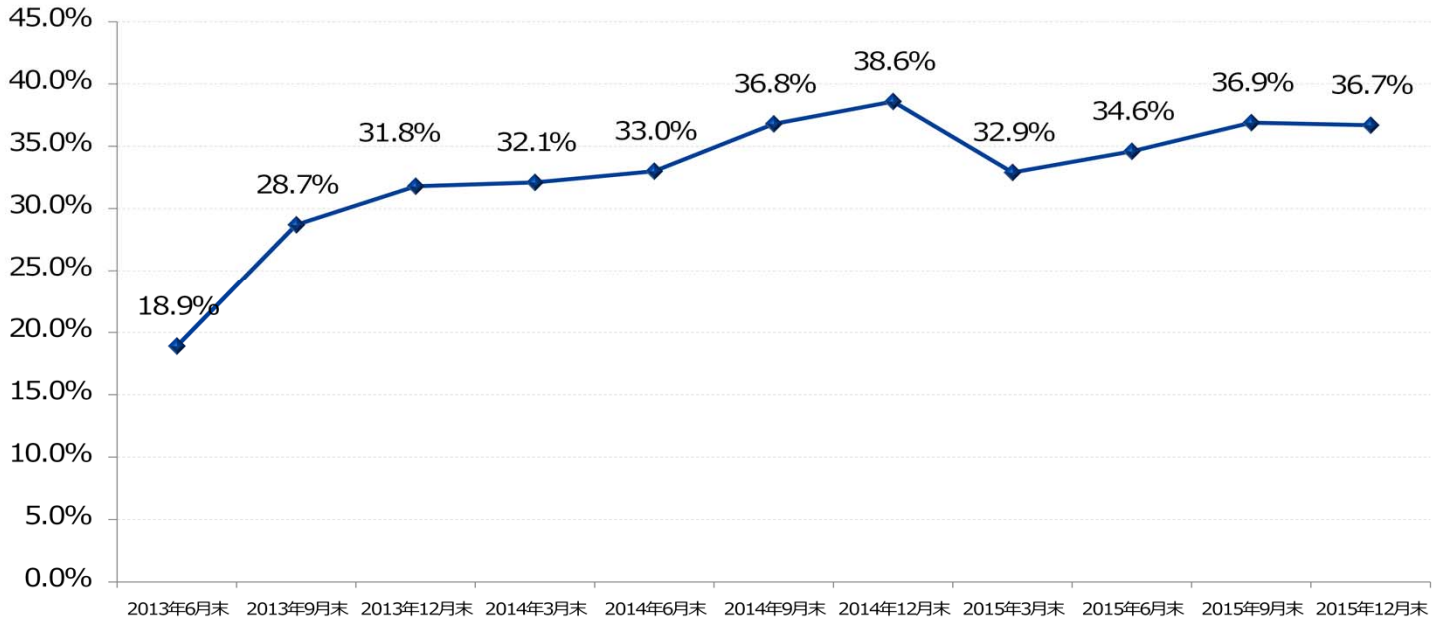
（※）従来「映像」に含めていた新規事業を「その他」へ区分変更したため、2015年3月期の数字を修正しています

【参考資料】有利子負債



 No data copy / No data transfer permitted

【参考資料】自己資本比率



 No data copy / No data transfer permitted

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。